

令和6年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

令和7年1月

札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課

本書に掲載している図表及び本文中の数値は、住民基本台帳による出生・死亡、人の移動等を集計したものです。なお、住民基本台帳法の改正により、平成24年7月9日から外国人住民も同法の適用を受けており、本書における数値は、特に記載がない限り、日本人住民と外国人住民の合計です。

### 1 札幌市の人口動態の概況

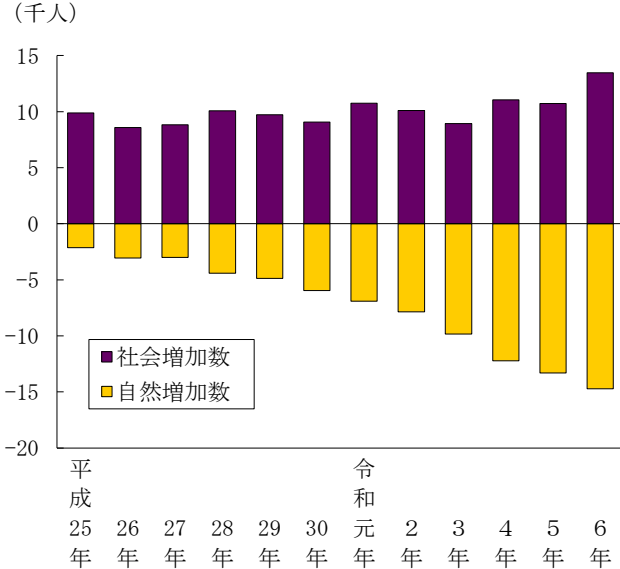
住民基本台帳による令和6年中の人口増加数はマイナス1,250人で、前年と比べてマイナス幅が縮小（第1表、第1図）

令和6年中の人口増加数はマイナス1,250人で、前年（マイナス2,584人）と比べてマイナス幅が1,334人縮小したが、4年連続のマイナスとなった。これを自然増加数（出生－死亡）と社会増加数（転入－転出）に区分すると、自然増加数はマイナス14,712人で、前年（マイナス13,323人）と比べてマイナス幅が1,389人拡大し、社会増加数は13,462人で、前年（10,739人）と比べて2,723人拡大している。

平成25年以降の推移をみると、自然増加数は、減少規模の拡大傾向が続き、令和4年以降は1万人を超えるマイナスで推移している。

社会増加数は、増加規模がおおむね8千人から1万人台で推移していたが、令和6年は1万3千人台に拡大している。

第1図 自然増加数及び社会増加数の推移（各年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1表 人口動態の推移

年次	人口増加数	各年中					
		自然動態			社会動態		
		自然増加数	出生	死亡	社会増加数	市外との移動	区間移動・その他
総数							
平成25年	7,762	△ 2,136	14,677	16,813	9,898	a) 8,765	a) 1,133
26年	5,520	△ 3,060	14,622	17,682	8,580	a) 6,934	a) 1,646
27年	5,816	△ 3,005	14,667	17,672	8,821	a) 6,766	a) 2,055
28年	5,662	△ 4,408	14,189	18,597	10,070	a) 9,899	a) 171
29年	4,854	△ 4,866	13,971	18,837	9,720	9,809	△ 89
30年	3,109	△ 5,965	13,403	19,368	9,074	9,316	△ 242
令和元年	3,856	△ 6,901	12,810	19,711	10,757	11,116	△ 359
2年	2,262	△ 7,845	12,333	20,178	10,107	10,339	△ 232
3年	△ 907	△ 9,835	12,100	21,935	8,928	9,300	△ 372
4年	△ 1,156	△ 12,215	11,258	23,473	11,059	11,153	△ 94
5年	△ 2,584	△ 13,323	10,456	23,779	10,739	11,002	△ 263
6年	△ 1,250	△ 14,712	9,669	24,381	13,462	13,903	△ 441
うち日本人							
平成25年	7,776	△ 2,182	14,602	16,784	9,958	9,570	388
26年	5,217	△ 3,107	14,543	17,650	8,324	7,954	370
27年	5,231	△ 3,057	14,589	17,646	8,288	7,978	310
28年	4,655	△ 4,459	14,107	18,566	9,114	8,848	266
29年	3,862	△ 4,924	13,883	18,807	8,786	8,371	415
30年	1,934	△ 6,016	13,314	19,330	7,950	7,647	303
令和元年	2,388	△ 6,938	12,727	19,665	9,326	9,146	180
2年	3,242	△ 7,917	12,229	20,146	11,159	10,714	445
3年	△ 280	△ 9,867	12,029	21,896	9,587	9,384	203
4年	△ 3,458	△ 12,242	11,187	23,429	8,784	8,483	301
5年	△ 4,800	△ 13,352	10,374	23,726	8,552	8,407	145
6年	△ 4,048	△ 14,755	9,579	24,334	10,707	10,588	119

注：a) 外国人の集計方法が異なるため、平成29年以降の数値とは単純比較ができない。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

## 2 自然動態

### 出生数が1万人を割る（第2表、第2図）

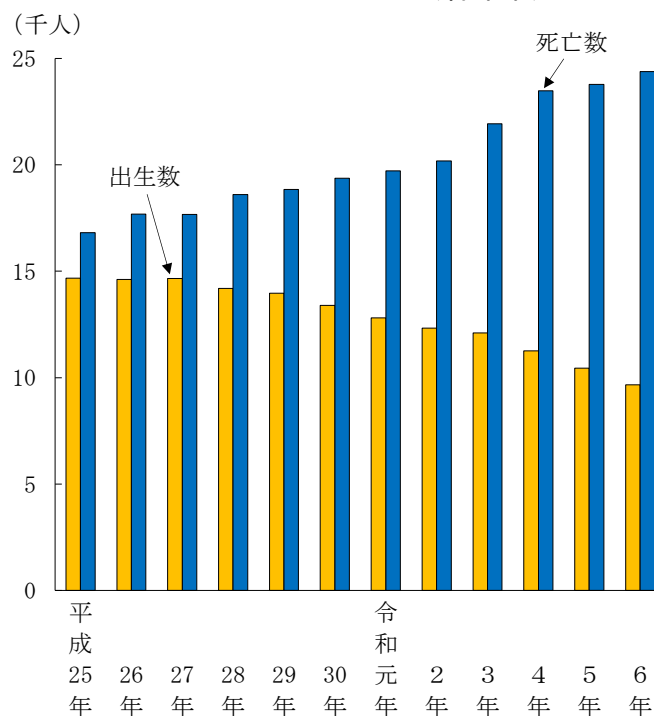
令和6年中の自然動態をみると、出生数は9,669人で、前年（10,456人）より787人減少した。死亡数は24,381人で、前年（23,779人）より602人増加した。

平成25年以降の推移をみると、出生数は減少傾向が続き、29年に13,971人と1万4千人を、令和元年に12,810人と1万3千人を割った。その後、1万2千人台で推移していたが、令和4年に1万2千人を、5年に1万1千人を割り、6年には1万人を割っている。令和4年以降、出生数は前年と比べて800人前後の減少が続いている。

一方、死亡数は高齢化を背景に増加傾向が続いており、令和2年に20,178人と2万人を超えた。その後も増加が続き、令和6年には24,381人と2万4千人を超えている。

自然増加数は、出生数の減少及び死亡数の増加によりマイナス幅の拡大が続いている。平成25年はマイナス2,136人であったが、令和4年以降はマイナス幅が1万人を超えて推移している。

第2図 出生数及び死亡数の推移  
(各年中)



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第2表 自然動態の推移

年次	自然動態			比率 (%) <sup>1)</sup>		
	自然増加数	出生	死亡	自然増加数	出生	死亡
平成25年	△ 2,136	14,677	16,813	△ 1.1	7.6	8.7
平成26年	△ 3,060	14,622	17,682	△ 1.6	7.5	9.1
平成27年	△ 3,005	14,667	17,672	△ 1.5	7.5	9.1
平成28年	△ 4,408	14,189	18,597	△ 2.3	7.2	9.5
平成29年	△ 4,866	13,971	18,837	△ 2.5	7.1	9.6
平成30年	△ 5,965	13,403	19,368	△ 3.0	6.8	9.9
令和元年	△ 6,901	12,810	19,711	△ 3.5	6.5	10.0
令和2年	△ 7,845	12,333	20,178	△ 4.0	6.2	10.2
令和3年	△ 9,835	12,100	21,935	△ 5.0	6.1	11.1
令和4年	△ 12,215	11,258	23,473	△ 6.2	5.7	11.9
令和5年	△ 13,323	10,456	23,779	△ 6.8	5.3	12.1
令和6年	△ 14,712	9,669	24,381	△ 7.5	4.9	12.4

注：1) 比率算出に用いた人口は、国勢調査人口及び推計人口（各年10月1日現在）である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

### 3 社会動態

#### (1) 概況

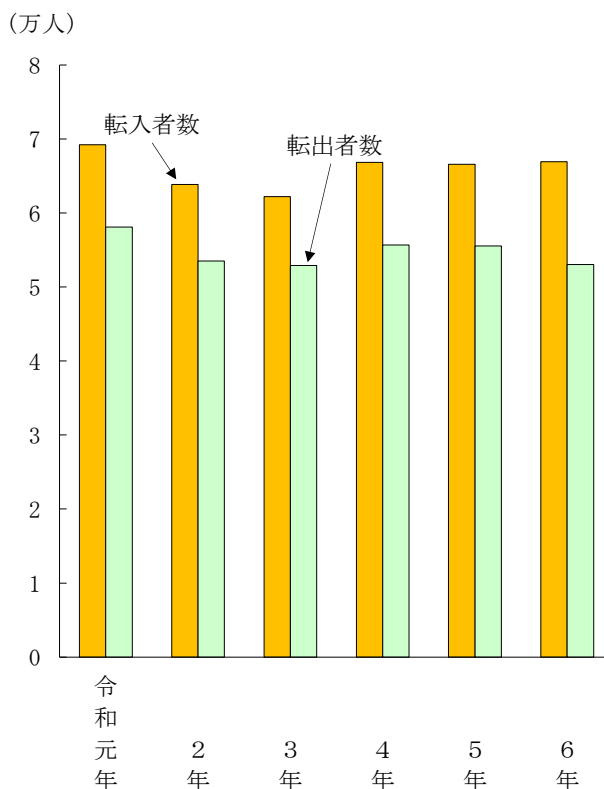
道内・道外ともに前年と比べて転入超過数が拡大（第3表、第3図、第4図）

令和6年中の社会動態をみると、市外から札幌市への転入者数は66,949人で、前年（66,571人）より378人増加した。令和元年以降の推移をみると、元年は7万人近くとなっていたが、2年、3年と減少が続き、3年は6万2千人台となった。令和4年に増加し、以降は6万6千人台となっている。

市外への転出者数は53,046人で、前年（55,569人）より2,523人減少した。令和元年以降の推移をみると、元年に5万8千人台だった転出者数は、2年に5万3千人台へ、3年に5万2千人台へ減少した。令和4年に増加し、それ以降、5万5千人台で推移していたが、6年には5万3千人台へ減少している。

転入超過数（転入者数－転出者数）は13,903人で、前年（11,002人）より2,901人拡大した。令和元年以降の推移をみると、元年の1万1千人台から、2年以降は縮小が続き、3年には9千人台となった。令和4年に拡大して以降は1万1千人台で推移し、さらに6年は1万3千人台へと拡大している。うち日本人をみると、転入超過数は10,588人で、前年（8,407人）より2,181人拡大した。推移をみると、令和3年に1万人を下回って以降、縮小が続いていたが、6年には拡大し、転入超過数は1万人を超えている。

第3図 転入・転出者数の推移（各年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第3表 道内・道外別転入・転出者数の推移

年次	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
	総						数		
令和元年	69,235	39,089	30,146	58,119	26,944	31,175	11,116	12,145	△ 1,029
2年	63,859	36,973	26,886	53,520	26,139	27,381	10,339	10,834	△ 495
3年	62,213	35,896	26,317	52,913	25,972	26,941	9,300	9,924	△ 624
4年	66,843	36,062	30,781	55,690	26,211	29,479	11,153	9,851	1,302
5年	66,571	36,231	30,340	55,569	25,453	30,116	11,002	10,778	224
6年	66,949	35,633	31,316	53,046	23,011	30,035	13,903	12,622	1,281
	う						ち		
	日						本		
	人								
令和元年	64,216	38,680	25,536	55,070	26,467	28,603	9,146	12,213	△ 3,067
2年	61,344	36,552	24,792	50,630	25,687	24,943	10,714	10,865	△ 151
3年	60,089	35,570	24,519	50,705	25,585	25,120	9,384	9,985	△ 601
4年	61,233	35,614	25,619	52,750	25,616	27,134	8,483	9,998	△ 1,515
5年	60,471	35,684	24,787	52,064	24,750	27,314	8,407	10,934	△ 2,527
6年	59,684	35,024	24,660	49,096	22,239	26,857	10,588	12,785	△ 2,197

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

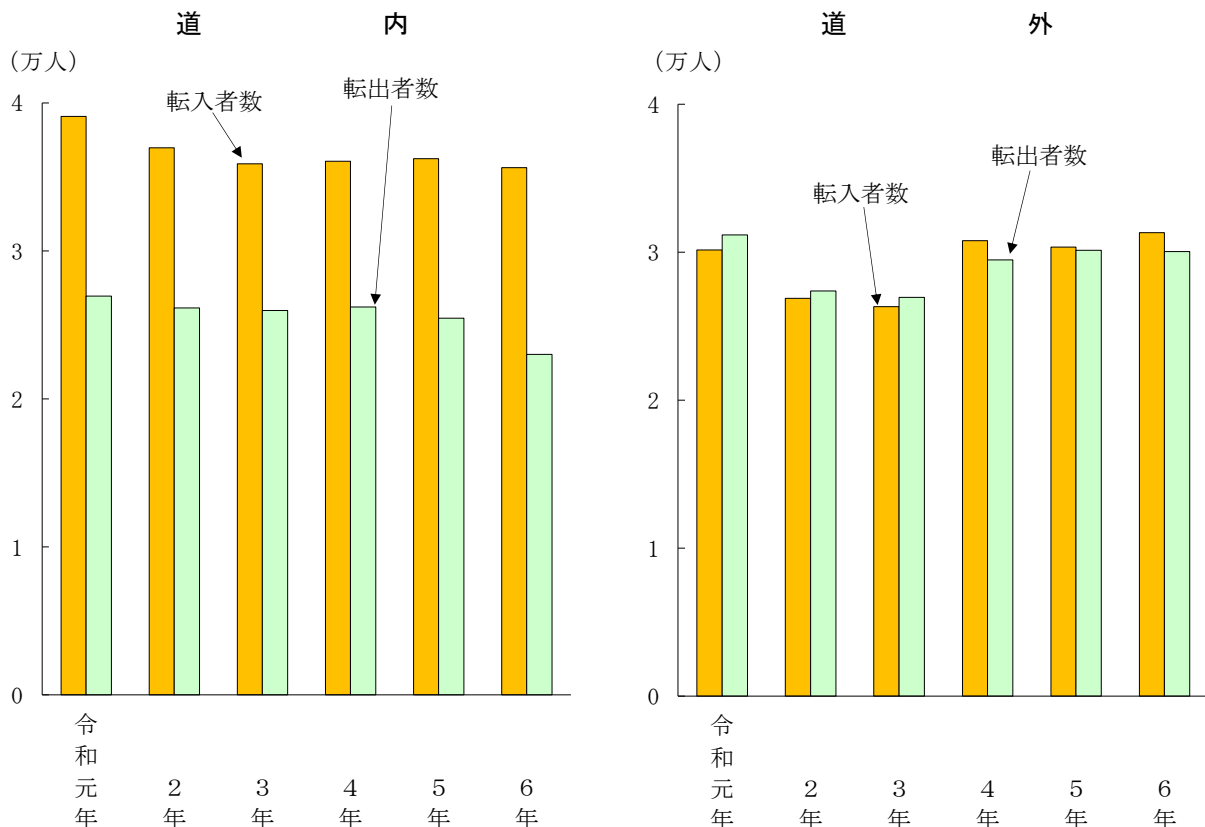
令和6年中の社会動態を道内・道外別にみると、道内からの転入者数は35,633人で、前年(36,231人)より598人減少した。令和元年以降の推移をみると、元年は3万9千人台だったが、2年以降は減少が続き、3年は3万5千人台まで減少した。令和4年に増加し、以降は3万6千人台で推移していたが、6年は3万5千人台へ減少している。道内への転出者数は23,011人で、前年(25,453人)より2,442人減少した。推移をみると、令和元年は2万6千人台だったが減少が続き、3年に2万5千人台まで減少した。令和4年には増加し2万6千人台となっていたが、その後は再び減少が続き、6年には2万3千人台となっている。

道内との関係は転入超過が続いており、令和6年は12,622人の転入超過で、前年(10,778人)より1,844人拡大した。令和元年以降の推移をみると、元年に1万2千人台だった転入超過数は、減少が続いていたが、5年に増加へ転じ、6年には1万2千人台となっている。

道外からの転入者数は31,316人で、前年(30,340人)より976人増加した。令和元年以降の推移をみると、元年は3万人台だったが、2年及び3年は2万6千人台まで減少した。令和4年に増加し、以降は3万人台で推移していたが、6年には3万1千人台へと増加している。道外への転出者数は30,035人で、前年(30,116人)より81人減少した。推移をみると、令和元年は3万1千人台だったが、2年及び3年は2万7千人前後となった。令和4年に2万9千人台へ増加し、5年以降は3万人台で推移している。

道外との関係は令和4年以降転入超過となっており、6年は1,281人の転入超過で、前年(224人)より1,057人拡大した。令和元年以降の推移をみると、元年は1千人を超える転出超過となっていたが、2年に大きく縮小し、4年以降は転入超過が続いている。うち日本人についてみると、転出超過が続いており、令和6年は2,197人の転出超過で前年(2,527人)より330人縮小した。推移をみると、令和元年は3千人を超えていたが、2年に大きく縮小し、2年及び3年は1千人を下回った。令和4年及び5年は転出超過数が拡大し、6年は前年と比べて転出超過数は縮小したものの、2千人台となっている。

第4図 道内・道外別転入・転出者数の推移(各年中)



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(2) 市町村別転入・転出者数

「旭川市」からの転入超過数が3年ぶりに1千人を超える（第4表、第5図）

主要8市（函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市）の令和6年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「旭川市」が3,081人で最も多く、以下、「函館市」が2,379人、「釧路市」が1,880人などと続いている。前年と比べると、「北見市」が121人増と最も大きく増加し、続いて「小樽市」が47人増となっている。一方、「函館市」が195人減と最も大きく減少し、以下、「苫小牧市」が174人減、「旭川市」が86人減などと続き、6市で減少となっている。

転出者数は、「旭川市」が2,055人で最も多く、以下、「函館市」が1,736人、「苫小牧市」が1,247人などと続いている。前年と比べると、「帯広市」が202人減と最も大きく減少し、以下、「旭川市」が189人減、「北見市」が111人減などと続き、主要8市のすべてで減少している。

転入超過数をみると、主要8市すべてに対して転入超過となっており、「旭川市」が1,026人で最も大きく、3年ぶりに1千人を上回った。以下、「釧路市」が893人、「小樽市」が731人などと続いている。前年と比べると、「北見市」が232人増と最も大きく拡大し、以下、「帯広市」が200人増、「小樽市」が124人増などと5市で拡大した一方で、「函館市」が164人減、「苫小牧市」が140人減、「室蘭市」が58人減と3市で縮小となった。

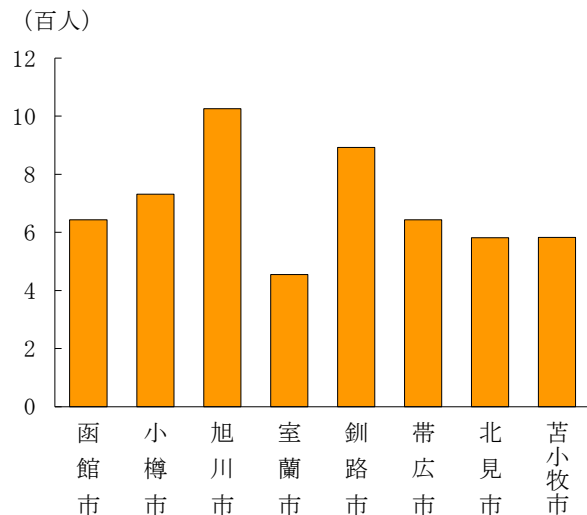
石狩振興局管内では4市1地域で転入超過となり、「千歳市」の転入超過数が大きく拡大（第4表、第6図）

石狩振興局管内（江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市及び石狩郡部）の市町村について、令和6年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「江別市」が1,798人で最も多く、以下、「千歳市」が1,491人、「石狩市」が1,036人などと続いている。前年と比べると、「千歳市」が126人増、「恵庭市」が92人増、「石狩郡部」が1人増と、2市1地域で増加となった。一方で、「江別市」で46人減、「北広島市」で42人減、「石狩市」で25人減と、3市で減少となった。

転出者数は、「江別市」が1,813人で最も多く、以下、「石狩市」が1,036人、「千歳市」が996人などと続いている。前年と比べると、すべての市及び地域で減少しており、「千歳市」が277人減と最も大きく減少し、以下、「石狩市」が240人減、「恵庭市」が159人減などと続いている。

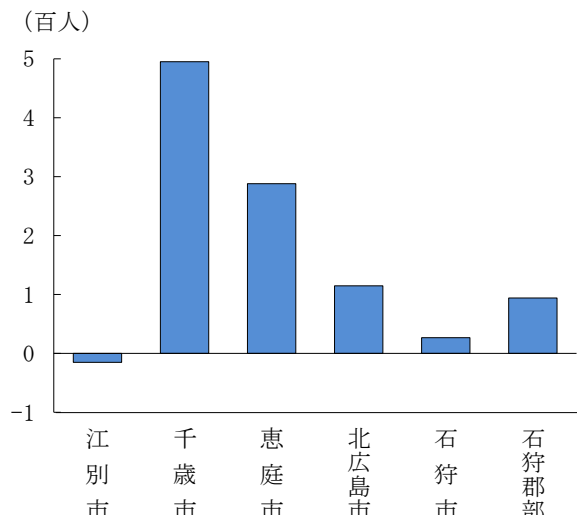
転入超過数をみると、4市1地域で転入超過となっており、「千歳市」が495人で最も大きく、以下、「恵庭市」が288人、「北広島市」が115人などと続いている。一方、「江別市」では15人の転出超過となっている。前年と比べると、「千歳市」が403人増と最も大きく拡大し、以下、「恵庭市」が251人増、「石狩市」が215人増などと続き、すべての市及び地域で拡大している。

第5図 道内主要8市別転入超過数  
（令和6年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第6図 石狩振興局管内市・地域別転入超過数  
（令和6年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第4表 道内市町村別転入・転出者数の推移

市 町 村	各年中					
	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
		転 入		者 数		
総 数	39,089	36,973	35,896	36,062	36,231	35,633
うち主要8市	16,307	15,576	15,333	15,096	15,411	15,030
函館市	2,648	2,673	2,620	2,468	2,574	2,379
小樽市	1,868	1,751	1,566	1,652	1,640	1,687
旭川市	3,586	3,192	3,397	3,197	3,167	3,081
室蘭市	1,071	1,092	1,055	1,109	1,141	1,074
釧路市	1,960	1,838	1,901	1,857	1,905	1,880
帯広市	2,038	1,886	1,753	1,802	1,844	1,842
北見市	1,270	1,216	1,178	1,145	1,136	1,257
苫小牧市	1,866	1,928	1,863	1,866	2,004	1,830
うち石狩振興局	7,315	6,933	6,805	6,877	6,572	6,678
江別市	2,144	2,067	1,898	2,053	1,844	1,798
千歳市	1,399	1,333	1,428	1,398	1,365	1,491
恵庭市	1,009	945	883	921	896	988
北広島市	1,100	1,001	1,013	1,021	1,007	965
石狩市	1,236	1,226	1,191	1,102	1,088	1,063
石狩郡	427	361	392	382	372	373
		転 出		者 数		
総 数	26,944	26,139	25,972	26,211	25,453	23,011
うち主要8市	11,019	10,659	10,851	10,949	10,201	9,474
函館市	1,946	1,967	1,907	1,947	1,767	1,736
小樽市	1,043	1,178	1,134	1,171	1,033	956
旭川市	2,377	2,291	2,305	2,429	2,244	2,055
室蘭市	703	582	654	697	628	619
釧路市	1,188	1,080	1,200	1,082	1,061	987
帯広市	1,480	1,440	1,483	1,419	1,401	1,199
北見市	765	797	719	763	786	675
苫小牧市	1,517	1,324	1,449	1,441	1,281	1,247
うち石狩振興局	7,216	6,800	6,608	6,709	6,601	5,674
江別市	2,518	2,249	2,014	2,000	1,861	1,813
千歳市	1,285	1,173	1,077	1,056	1,273	996
恵庭市	841	756	785	887	859	700
北広島市	894	966	998	977	936	850
石狩市	1,420	1,421	1,419	1,401	1,276	1,036
石狩郡	258	235	315	388	396	279
		転 入 超 過		数		
総 数	12,145	10,834	9,924	9,851	10,778	12,622
うち主要8市	5,288	4,917	4,482	4,147	5,210	5,556
函館市	702	706	713	521	807	643
小樽市	825	573	432	481	607	731
旭川市	1,209	901	1,092	768	923	1,026
室蘭市	368	510	401	412	513	455
釧路市	772	758	701	775	844	893
帯広市	558	446	270	383	443	643
北見市	505	419	459	382	350	582
苫小牧市	349	604	414	425	723	583
うち石狩振興局	99	133	197	168	△ 29	1,004
江別市	△ 374	△ 182	△ 116	53	△ 17	△ 15
千歳市	114	160	351	342	92	495
恵庭市	168	189	98	34	37	288
北広島市	206	35	15	44	71	115
石狩市	△ 184	△ 195	△ 228	△ 299	△ 188	27
石狩郡	169	126	77	△ 6	△ 24	94

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(3) 道外地域別転入・転出者数

「国外」からの転入超過数が3千人を超える（第5表）

道外を「東北圏」、「関東圏」、「中部圏」、「近畿圏」、「その他」（中国圏、四国圏、九州・沖縄圏）及び「国外」の6圏域（各圏域に該当する都府県については、第5表の注を参照）に分け、令和6年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「関東圏」が13,538人で全体の43.2%を占めて最も多く、以下、「国外」が6,758人（21.6%）、「中部圏」が3,090人（9.9%）、「東北圏」が2,748人（8.8%）、「近畿圏」が2,611人（8.3%）などとなっている。前年と比べると、「国外」が914人増、「中部圏」が110人増、「その他」が102人増などと、4地域で増加となった一方で、「東北圏」が113人減、「関東圏」が69人減と2地域で減少となった。

転出者数は、「関東圏」が15,952人で全体の53.1%と5割以上を占めて最も多く、以下、「国外」が3,447人（11.5%）、「近畿圏」が2,875人（9.6%）などと続いている。前年と比べると、「その他」が161人増、「関東圏」が86人増と2地域で増加となった一方で、「国外」が144人減と最も大きく減少し、以下、「中部圏」が107人減、「東北圏」が40人減などと、4地域で減少となった。

転入超過数をみると、3地域で転入超過となっており、「国外」が3,311人で最も大きく、以下、「東北圏」が344人、「中部圏」が326人と続いている。一方、3地域で転出超過となっており、「関東圏」がマイナス2,414人で最も大きく、以下、「近畿圏」がマイナス264人、「その他」がマイナス22人と続いている。令和元年以降の推移をみると、「関東圏」は、元年はマイナス3千人台で、2年以降はマイナス1千人台が続いていたが、5年以降はマイナス2千人台で推移し、転出超過が拡大している。「国外」は、令和元年は1千人を超える転入超過だったが、2年に縮小に転じ、3年には転出超過となった。令和4年以降は再び転入超過となり、6年には3千人を超える転入超過となっている。

第5表 道外地域別転入・転出者数の推移

年次	各年中												
	実数						割合 (%)						
	総数	国内					国外	国内					国外
東北圏 1)		関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)	その他	東北圏 1)		関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)	その他		
<b>転入者数</b>													
令和元年	30,146	3,037	13,836	3,003	2,461	2,323	5,486	10.1	45.9	10.0	8.2	7.7	18.2
2年	26,886	2,870	13,795	2,920	2,513	2,352	2,436	10.7	51.3	10.9	9.3	8.7	9.1
3年	26,317	2,899	13,997	2,964	2,690	2,270	1,497	11.0	53.2	11.3	10.2	8.6	5.7
4年	30,781	2,887	14,062	3,089	2,694	2,441	5,608	9.4	45.7	10.0	8.8	7.9	18.2
5年	30,340	2,861	13,607	2,980	2,579	2,469	5,844	9.4	44.8	9.8	8.5	8.1	19.3
6年	31,316	2,748	13,538	3,090	2,611	2,571	6,758	8.8	43.2	9.9	8.3	8.2	21.6
<b>転出者数</b>													
令和元年	31,175	2,466	16,882	2,988	2,602	2,252	3,985	7.9	54.2	9.6	8.3	7.2	12.8
2年	27,381	2,251	15,171	2,645	2,642	2,366	2,306	8.2	55.4	9.7	9.6	8.6	8.4
3年	26,941	2,336	15,301	2,648	2,667	2,312	1,677	8.7	56.8	9.8	9.9	8.6	6.2
4年	29,479	2,499	15,907	2,868	2,801	2,499	2,905	8.5	54.0	9.7	9.5	8.5	9.9
5年	30,116	2,444	15,866	2,871	2,912	2,432	3,591	8.1	52.7	9.5	9.7	8.1	11.9
6年	30,035	2,404	15,952	2,764	2,875	2,593	3,447	8.0	53.1	9.2	9.6	8.6	11.5
<b>転入超過数</b>													
令和元年	△ 1,029	571	△ 3,046	15	△ 141	71	1,501	—	—	—	—	—	—
2年	△ 495	619	△ 1,376	275	△ 129	△ 14	130	—	—	—	—	—	—
3年	△ 624	563	△ 1,304	316	△ 23	△ 42	△ 180	—	—	—	—	—	—
4年	1,302	388	△ 1,845	221	△ 107	△ 58	2,703	—	—	—	—	—	—
5年	224	417	△ 2,259	109	△ 333	37	2,253	—	—	—	—	—	—
6年	1,281	344	△ 2,414	326	△ 264	△ 22	3,311	—	—	—	—	—	—

注：1) 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県。 2) 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。

3) 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県。 4) 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課



#### 4 男女別人口動態

##### 男女ともに社会増加数が拡大（第6表、第7図）

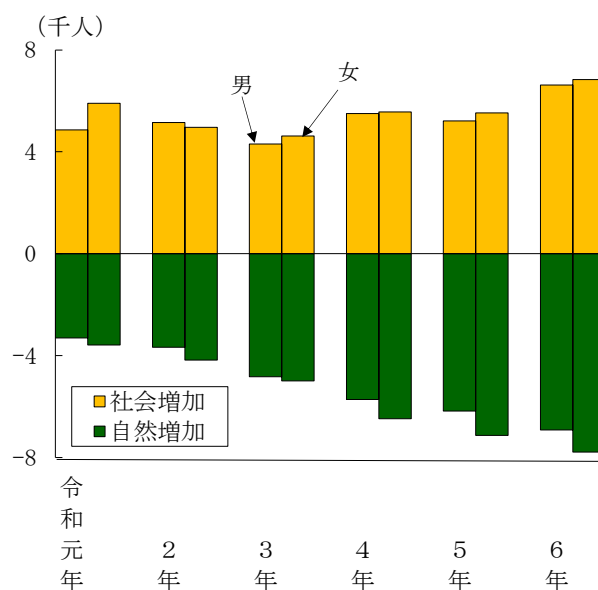
令和6年中の人口増加数を男女別にみると、男性はマイナス301人で前年（マイナス976人）を675人上回っている。女性はマイナス949人で前年（マイナス1,608人）を659人上回り、男女ともにマイナスとなっている。

男性の人口増加数の内訳をみると、自然増加数はマイナス6,926人と自然減少となっている一方で、社会増加数は6,625人と社会増加となっている。令和元年以降の推移をみると、自然増加数はマイナス幅の拡大が続いており、5年以降は6千人を超えるマイナス幅となっている。社会増加数は4千人から5千人台の規模で推移していたが、令和6年には6千人台に拡大している。

女性の人口増加数の内訳をみると、自然増加数はマイナス7,786人と自然減少となっている一方で、社会増加数は6,837人と社会増加となっている。令和元年以降の推移をみると、自然増加数はマイナス幅の拡大が続いており、5年以降は7千人を超えるマイナス幅で推移している。社会増加数は4千人から5千人台の規模で推移していたが、令和6年には6千人台に拡大している。

男女ともに、自然増加数は前年と比べてマイナス幅が拡大し、社会増加数は前年と比べて拡大している。

第7図 男女別自然増加数及び社会増加数の推移（各年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第6表 男女別人口動態の推移

年次	人口増加数	各年中							
		自然動態			社会動態				
		自然増加数	出生	死亡	社会増加数	市外との移動		その他	
						道内	道外		
総数									
令和元年	3,856	△ 6,901	12,810	19,711	10,757	12,145	△ 1,029	△ 359	
2年	2,262	△ 7,845	12,333	20,178	10,107	10,834	△ 495	△ 232	
3年	△ 907	△ 9,835	12,100	21,935	8,928	9,924	△ 624	△ 372	
4年	△ 1,156	△ 12,215	11,258	23,473	11,059	9,851	1,302	△ 94	
5年	△ 2,584	△ 13,323	10,456	23,779	10,739	10,778	224	△ 263	
6年	△ 1,250	△ 14,712	9,669	24,381	13,462	12,622	1,281	△ 441	
男									
令和元年	1,543	△ 3,312	6,582	9,894	4,855	4,870	193	△ 208	
2年	1,471	△ 3,672	6,335	10,007	5,143	4,605	629	△ 91	
3年	△ 530	△ 4,835	6,258	11,093	4,305	4,150	344	△ 189	
4年	△ 232	△ 5,727	5,864	11,591	5,495	3,991	1,559	△ 55	
5年	△ 976	△ 6,183	5,461	11,644	5,207	4,483	926	△ 202	
6年	△ 301	△ 6,926	4,977	11,903	6,625	5,469	1,447	△ 291	
女									
令和元年	2,313	△ 3,589	6,228	9,817	5,902	7,275	△ 1,222	△ 151	
2年	791	△ 4,173	5,998	10,171	4,964	6,229	△ 1,124	△ 141	
3年	△ 377	△ 5,000	5,842	10,842	4,623	5,774	△ 968	△ 183	
4年	△ 924	△ 6,488	5,394	11,882	5,564	5,860	△ 257	△ 39	
5年	△ 1,608	△ 7,140	4,995	12,135	5,532	6,295	△ 702	△ 61	
6年	△ 949	△ 7,786	4,692	12,478	6,837	7,153	△ 166	△ 150	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

## 5 年齢別人口動態

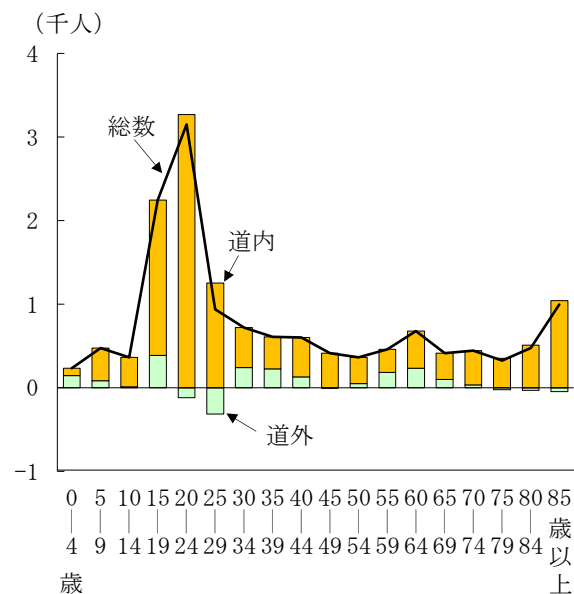
### すべての年齢階級で転入超過（第7表、第8図）

令和6年中の市外との転入・転出者数を年齢（5歳階級）別にみると、転入者では「20～24歳」が14,205人で最も多く、以下、「25～29歳」が10,655人、「30～34歳」が6,719人などと続いている。転出者では、「20～24歳」が11,056人で最も多く、以下、「25～29歳」が9,716人、「30～34歳」が5,998人などと続いている。転入者、転出者ともに、「20～24歳」が最も多くなっている。

転入超過数をみると、すべての年齢階級で転入超過となっている。「20～24歳」が3,149人で最も大きく、「15～19歳」が2,245人などと続いており、これらの年齢階級が突出している。

転入超過数を道内・道外別にみると、道内はすべての年齢階級で転入超過となっている。「20～24歳」が3,270人と3千人を超える転入超過で最も大きく、次いで、「15～19歳」が1,860人となっており、これらの年齢階級が突出している。一方、道外は6つの年齢階級で転出超過となっており、「25～29歳」がマイナス313人で最も大きく、次いで、「20～24歳」がマイナス121人と、これらの年齢階級では転出超過数が突出している。転入超過となっている年齢階級をみると、「15～19歳」が385人、「30～34歳」が242人、「60～64歳」が232人などと、12の年齢階級で転入超過となっている。

第8図 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（令和6年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第7表 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入・転出者数

年 齢 (5歳階級)	転 入 者 数			転 出 者 数			転 入 超 過 数		
	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外
総 数	66,949	35,633	31,316	53,046	23,011	30,035	13,903	12,622	1,281
0～4歳	2,654	1,283	1,371	2,421	1,194	1,227	233	89	144
5～9	1,851	883	968	1,375	491	884	476	392	84
10～14	1,168	595	573	806	244	562	362	351	11
15～19	5,178	3,108	2,070	2,933	1,248	1,685	2,245	1,860	385
20～24	14,205	7,654	6,551	11,056	4,384	6,672	3,149	3,270	△ 121
25～29	10,655	5,129	5,526	9,716	3,877	5,839	939	1,252	△ 313
30～34	6,719	3,082	3,637	5,998	2,603	3,395	721	479	242
35～39	4,720	2,195	2,525	4,112	1,812	2,300	608	383	225
40～44	3,685	1,795	1,890	3,084	1,323	1,761	601	472	129
45～49	3,406	1,774	1,632	2,994	1,361	1,633	412	413	△ 1
50～54	3,212	1,766	1,446	2,848	1,453	1,395	364	313	51
55～59	2,514	1,356	1,158	2,055	1,082	973	459	274	185
60～64	1,804	1,034	770	1,127	589	538	677	445	232
65～69	1,122	680	442	707	363	344	415	317	98
70～74	963	684	279	520	275	245	443	409	34
75～79	762	564	198	435	212	223	327	352	△ 25
80～84	817	691	126	341	183	158	476	508	△ 32
85歳以上	1,514	1,360	154	518	317	201	996	1,043	△ 47
(再掲)									
年少人口	5,673	2,761	2,912	4,602	1,929	2,673	1,071	832	239
生産年齢人口	56,098	28,893	27,205	45,923	19,732	26,191	10,175	9,161	1,014
老年人口	5,178	3,979	1,199	2,521	1,350	1,171	2,657	2,629	28

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

### 女性の「20～24歳」では「道内」からの転入超過が2千人を超える（第8表、第9図）

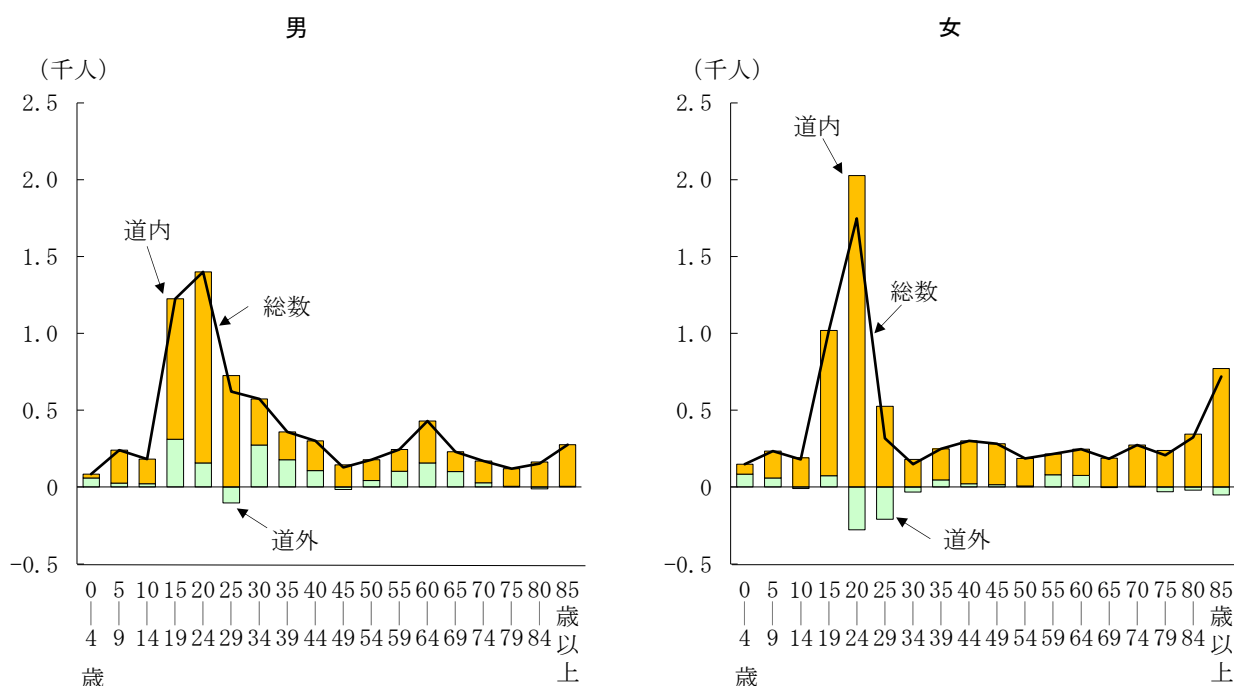
年齢（5歳階級）別転入・転出者数を男女別にみると、男性では、転入者は「20～24歳」が7,384人で最も多く、以下、「25～29歳」が5,741人、「30～34歳」が3,719人などと続いている。転出者は「20～24歳」が5,984人で最も多く、以下、「25～29歳」が5,119人、「30～34歳」が3,146人などと続いている。転入超過数は、すべての年齢階級で転入超過となっており、「20～24歳」が1,400人で最も大きく、以下、「15～19歳」が1,226人、「25～29歳」が622人などと続いている。

女性では、転入者は「20～24歳」が6,821人で最も多く、以下、「25～29歳」が4,914人、「30～34歳」が3,000人などと続いている。転出者は「20～24歳」が5,072人で最も多く、以下、「25～29歳」が4,597人、「30～34歳」が2,852人などと続いている。転入超過数は、すべての年齢階級で転入超過となっており、「20～24歳」が1,749人で最も大きく、以下、「15～19歳」が1,019人、「85歳以上」が720人などと続いている。

転入超過数を道内・道外別にみると、道内は、男女ともにすべての年齢階級で転入超過となっている。男女ともに「20～24歳」の年齢階級が最も大きく、女性では2千人を超える転入超過となっている。

道外は、男性は「25～29歳」や「45～49歳」など3つの年齢階級で転出超過となっており、特に「25～29歳」では1百人を超える転出超過となっている。女性は「20～24歳」や「25～29歳」など8の年齢階級で転出超過となっており、特に「20～24歳」と「25～29歳」では2百人をそれぞれ超える転出超過となっている。

第9図 男女、道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（令和6年中）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第8表 男女、道内・道外、年齢（5歳階級）別転入・転出者数

令和6年中

年 齢 (5歳階級)	転 入 者 数			転 出 者 数			転 入 超 過 数		
	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外
男									
総 数	35,904	18,196	17,708	28,988	12,727	16,261	6,916	5,469	1,447
0～4歳	1,340	625	715	1,256	600	656	84	25	59
5～9	950	465	485	709	249	460	241	216	25
10～14	581	288	293	399	127	272	182	161	21
15～19	2,931	1,663	1,268	1,705	749	956	1,226	914	312
20～24	7,384	3,630	3,754	5,984	2,387	3,597	1,400	1,243	157
25～29	5,741	2,684	3,057	5,119	1,958	3,161	622	726	△ 104
30～34	3,719	1,686	2,033	3,146	1,387	1,759	573	299	274
35～39	2,670	1,222	1,448	2,311	1,042	1,269	359	180	179
40～44	2,067	1,007	1,060	1,766	814	952	301	193	108
45～49	2,000	1,044	956	1,871	899	972	129	145	△ 16
50～54	1,920	1,058	862	1,742	923	819	178	135	43
55～59	1,518	816	702	1,274	676	598	244	140	104
60～64	1,089	621	468	659	348	311	430	273	157
65～69	615	336	279	385	207	178	230	129	101
70～74	434	285	149	265	144	121	169	141	28
75～79	288	197	91	168	83	85	120	114	6
80～84	258	218	40	106	54	52	152	164	△ 12
85歳以上	399	351	48	123	80	43	276	271	5
女									
総 数	31,045	17,437	13,608	24,058	10,284	13,774	6,987	7,153	△ 166
0～4歳	1,314	658	656	1,165	594	571	149	64	85
5～9	901	418	483	666	242	424	235	176	59
10～14	587	307	280	407	117	290	180	190	△ 10
15～19	2,247	1,445	802	1,228	499	729	1,019	946	73
20～24	6,821	4,024	2,797	5,072	1,997	3,075	1,749	2,027	△ 278
25～29	4,914	2,445	2,469	4,597	1,919	2,678	317	526	△ 209
30～34	3,000	1,396	1,604	2,852	1,216	1,636	148	180	△ 32
35～39	2,050	973	1,077	1,801	770	1,031	249	203	46
40～44	1,618	788	830	1,318	509	809	300	279	21
45～49	1,406	730	676	1,123	462	661	283	268	15
50～54	1,292	708	584	1,106	530	576	186	178	8
55～59	996	540	456	781	406	375	215	134	81
60～64	715	413	302	468	241	227	247	172	75
65～69	507	344	163	322	156	166	185	188	△ 3
70～74	529	399	130	255	131	124	274	268	6
75～79	474	367	107	267	129	138	207	238	△ 31
80～84	559	473	86	235	129	106	324	344	△ 20
85歳以上	1,115	1,009	106	395	237	158	720	772	△ 52

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

## 6 各区の人口動態

### 清田区の人口は1千人を超える減少（第9表、第10表）

令和6年中の人口増加数を区別にみると、中央区が893人で最も大きく増加し、以下、豊平区が503人、西区が387人と続き、5区で人口増加となっている。一方、それ以外の5区では人口減少となっており、清田区がマイナス1,134人、南区がマイナス733人、手稲区がマイナス622人などと続いている。

人口増加数の内訳をみると、自然増加数はすべての区でマイナスとなっており、北区では2千人を超える自然減少となっている。

社会増加数をみると、清田区を除く9区で増加となっており、中央区が2,456人で最も大きく増加し、2千人を超える社会増加となっている。以下、豊平区が1,876人、北区が1,810人、西区が1,797人、東区が1,740人、白石区が1,737人と続き、これら5区では1千人を超える社会増加となっている。清田区はマイナス118人と、10区で唯一の社会減少となっている。市外との移動についてみると、清田区を除く9区で転入超過となっており、中央区が2,488人で最も大きく、次いで、北区が2,022人と、これら2区ではそれぞれ2千人を超える転入超過となっている。区間移動についてみると、4区で転入超過となっており、西区が344人で最も大きく、以下、南区が102人、白石区が69人などと続いている。一方、6区で転出超過となっており、厚別区がマイナス167人で最も大きく、次いで、手稲区がマイナス164人、豊平区がマイナス111人などと続いている。

### 第9表 各区の人口動態

令和6年中								
区	人口増加数	自然動態			社会動態			
		自然増加数	出生	死亡	社会増加数	市外との移動による増加	区間移動による増加	職権等増減
全市	△ 1,250	△ 14,712	9,669	24,381	13,462	13,903	—	△ 441
中央区	893	△ 1,563	1,182	2,745	2,456	2,488	68	△ 100
北区	△ 272	△ 2,082	1,396	3,478	1,810	2,022	△ 64	△ 148
東区	41	△ 1,699	1,362	3,061	1,740	1,795	△ 18	△ 37
白石区	245	△ 1,492	1,182	2,674	1,737	1,715	69	△ 47
厚別区	△ 558	△ 1,189	454	1,643	631	851	△ 167	△ 53
豊平区	503	△ 1,373	1,255	2,628	1,876	1,998	△ 111	△ 11
清田区	△ 1,134	△ 1,016	427	1,443	△ 118	△ 45	△ 59	△ 14
南区	△ 733	△ 1,575	546	2,121	842	764	102	△ 24
西区	387	△ 1,410	1,229	2,639	1,797	1,464	344	△ 11
手稲区	△ 622	△ 1,313	636	1,949	691	851	△ 164	4

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

### 第10表 区別区間転入超過数

令和6年中											
区	対全市	対中央区	対北区	対東区	対白石区	対厚別区	対豊平区	対清田区	対南区	対西区	対手稲区
全市	—	△ 68	64	18	△ 69	167	111	59	△ 102	△ 344	164
中央区	68	—	36	100	△ 32	12	△ 88	49	62	△ 198	127
北区	△ 64	△ 36	—	40	△ 11	△ 52	△ 47	10	△ 5	△ 19	56
東区	△ 18	△ 100	△ 40	—	131	1	△ 2	21	3	△ 31	△ 1
白石区	69	32	11	△ 131	—	136	95	△ 30	△ 7	△ 83	46
厚別区	△ 167	△ 12	52	△ 1	△ 136	—	△ 10	△ 33	4	△ 8	△ 23
豊平区	△ 111	88	47	2	△ 95	10	—	10	△ 97	△ 89	13
清田区	△ 59	△ 49	△ 10	△ 21	30	33	△ 10	—	△ 10	△ 5	△ 17
南区	102	△ 62	5	△ 3	7	△ 4	97	10	—	40	12
西区	344	198	19	31	83	8	89	5	△ 40	—	△ 49
手稲区	△ 164	△ 127	△ 56	1	△ 46	23	△ 13	17	△ 12	49	—

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

## 7 まちづくりセンター別人口動態

人口増加数の最も多いまちづくりセンターは西区の「琴似二十四軒」(第11表、第10図)

令和6年中のまちづくりセンター別人口増加状況をみると、増加が35か所、減少が51か所となっている。

人口増加数の多いまちづくりセンターをみると、西区の「琴似二十四軒」が487人で最も多く、以下、豊平区の「豊平」が433人、北区の「鉄西」が342人などと続いている。一方、人口増加数の少ないまちづくりセンターをみると、厚別区の「もみじ台」がマイナス439人で最も少なく、以下、清田区の「里塚・美しが丘」がマイナス376人、北区の「屯田」がマイナス351人などと続いている。

第11表 人口増加数の多いまちづくりセンター及び少ないまちづくりセンター

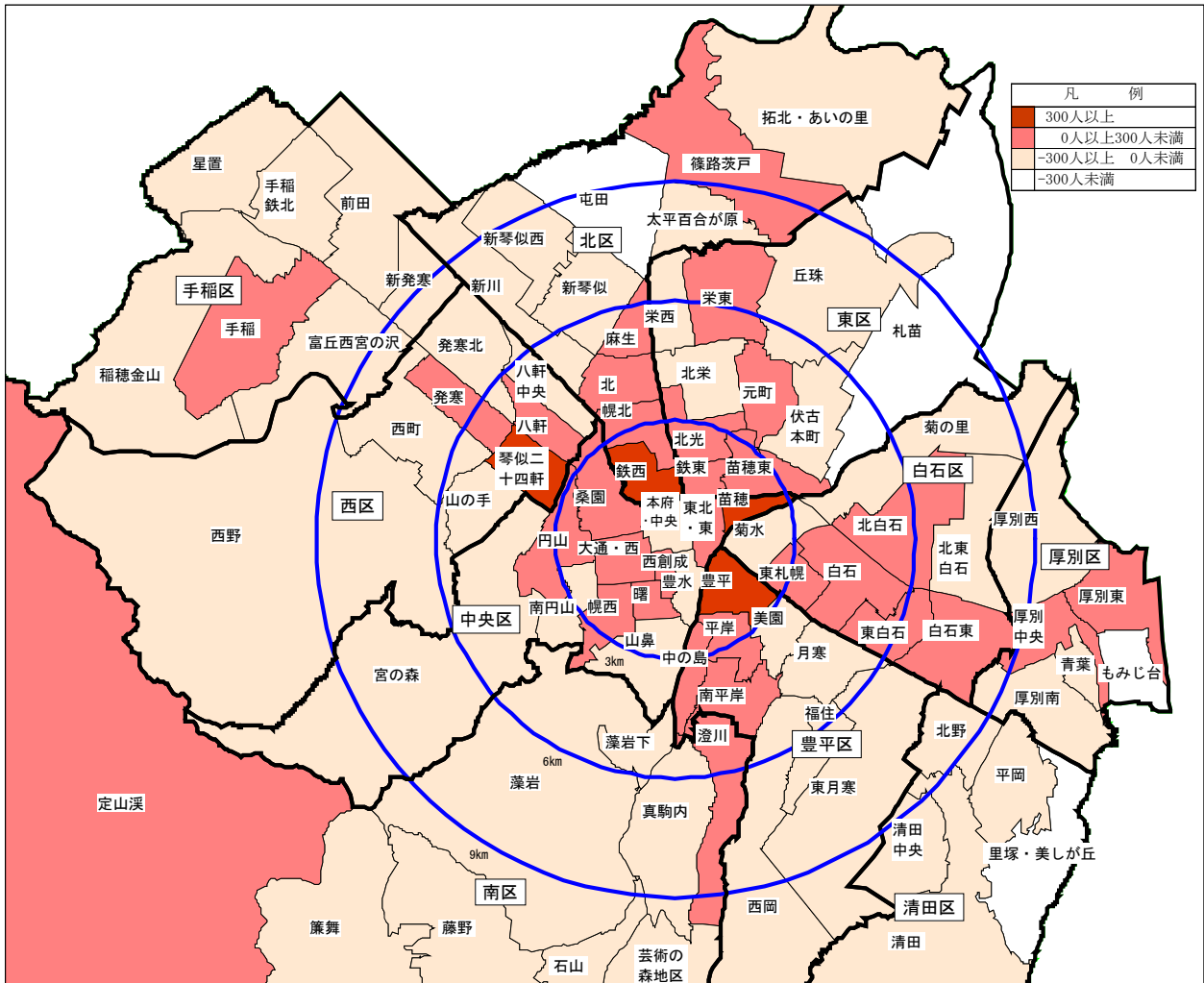
令和6年中

人口増加数の多いまちづくりセンター					人口増加数の少ないまちづくりセンター				
順位	まちづくりセンター	人口増加数	自然増加数 1)	社会増加数 1)	順位	まちづくりセンター	人口増加数	自然増加数 1)	社会増加数 1)
1	西) 琴似二十四軒	487	(57) △ 211	( 1) 698	1	厚) もみじ台	△ 439	(75) △ 278	(86) △ 161
2	豊) 豊平	433	(23) △ 117	( 2) 550	2	清) 里塚・美しが丘	△ 376	(67) △ 245	(85) △ 131
3	北) 鉄西	342	( 5) △ 26	( 8) 368	3	北) 屯田	△ 351	(64) △ 238	(84) △ 113
4	中) 苗穂	317	( 1) △ 20	(13) 337	4	東) 札苗	△ 321	(79) △ 294	(78) △ 27
5	北) 幌北	275	( 8) △ 56	(14) 331	5	北) 拓北・あいの里	△ 291	(73) △ 263	(79) △ 28

注：1) ( ) 内の数値は、各増加数での順位。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第10図 まちづくりセンター別人口増加数(令和6年中)



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

## 8 統計区別人口動態

### (1) 自然増加数

自然増加数の最も多い統計区は東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）（第12表、第11図）

令和6年中の統計区別自然増加状況をみると、増加が5統計区、減少が196統計区、増減なしが2統計区（人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く）と、ほとんどの統計区で自然減少となっている。

自然増加数の多い統計区をみると、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が12人で最も多くなっている。一方、自然増加数の少ない統計区をみると、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）がマイナス278人で最も少なく、以下、手稲区の7502統計区（西宮の沢）がマイナス225人、南区の6020統計区（真駒内南町、石山、石山東、芸術の森）がマイナス219人などと続いている。

第12表 自然増加数の多い統計区及び少ない統計区

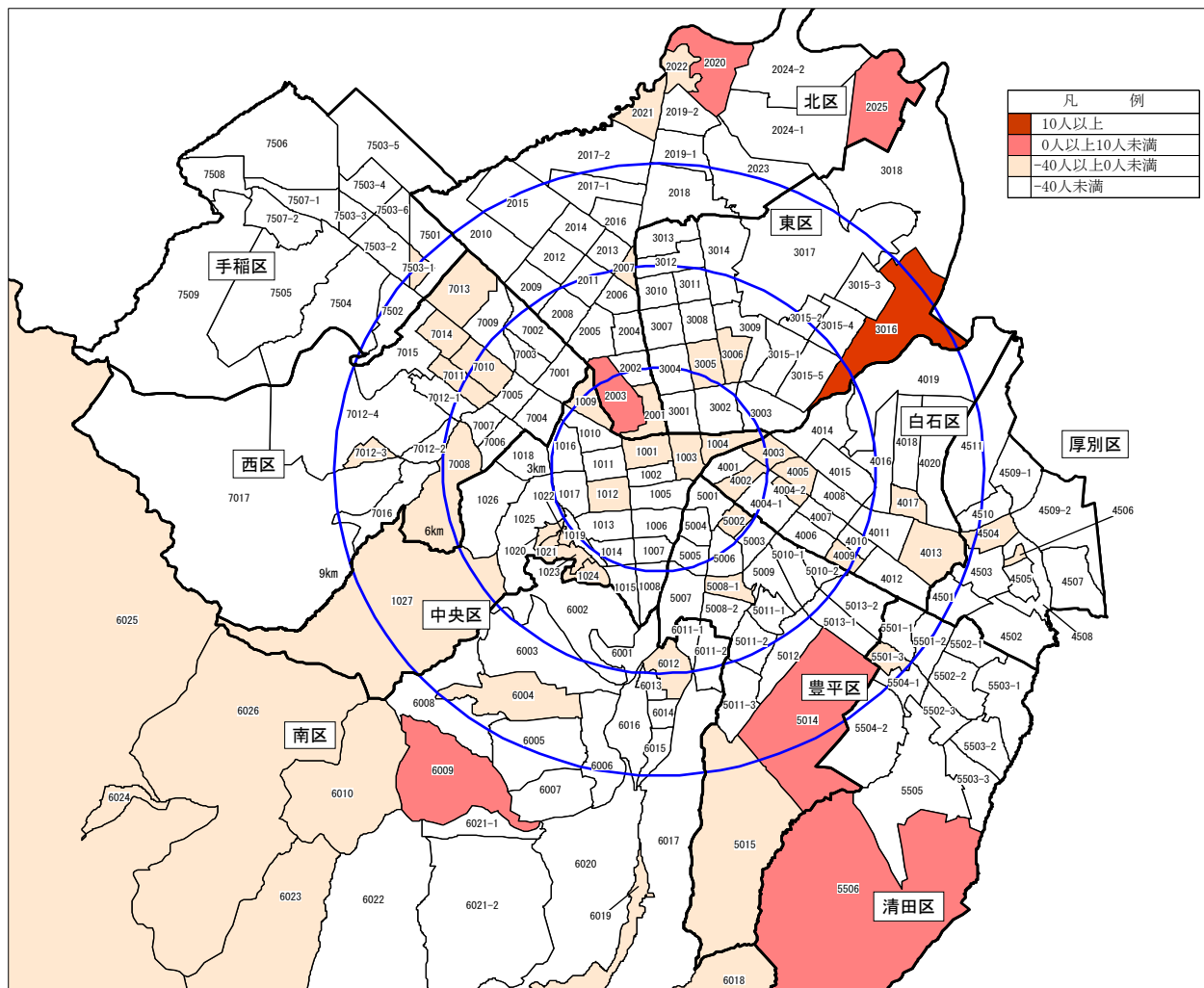
人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

令和6年中

順位	自然増加数の多い統計区		順位	自然増加数の少ない統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	自然増加数		統計区番号及び主な地区・町名	自然増加数
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	12	1	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 278
2	2003 北) 北海道大学構内	2	2	7502 手) 西宮の沢	△ 225
3	2020 北) 篠路町篠路	1	3	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	△ 219
3	5014 豊) 羊ヶ丘	1	4	5505 清) 真栄、美しが丘	△ 191
3	5506 清) 有明	1	5	6006 南) 川沿、川沿町	△ 181

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第11図 統計区別自然増加数（令和6年中）



注： 第12表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(2) 社会増加数

社会増加数の最も多い統計区は北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）（第13表、第12図）

令和6年中の統計区別社会増加状況をみると、増加が147統計区、減少が51統計区、増減なしが5統計区（人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く）となっている。

社会増加数の多い統計区をみると、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が460人で最も多く、以下、西区の7004統計区（二十四軒）が435人、東区の3004統計区（北光地区、北栄地区）が428人などと続いている。一方、社会増加数の少ない統計区をみると、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）がマイナス161人で最も少なく、以下、北区の2017-2統計区（屯田、屯田町）がマイナス95人、東区の3005統計区（北光地区、北栄地区）がマイナス87人などと続いている。

第13表 社会増加数の多い統計区及び少ない統計区

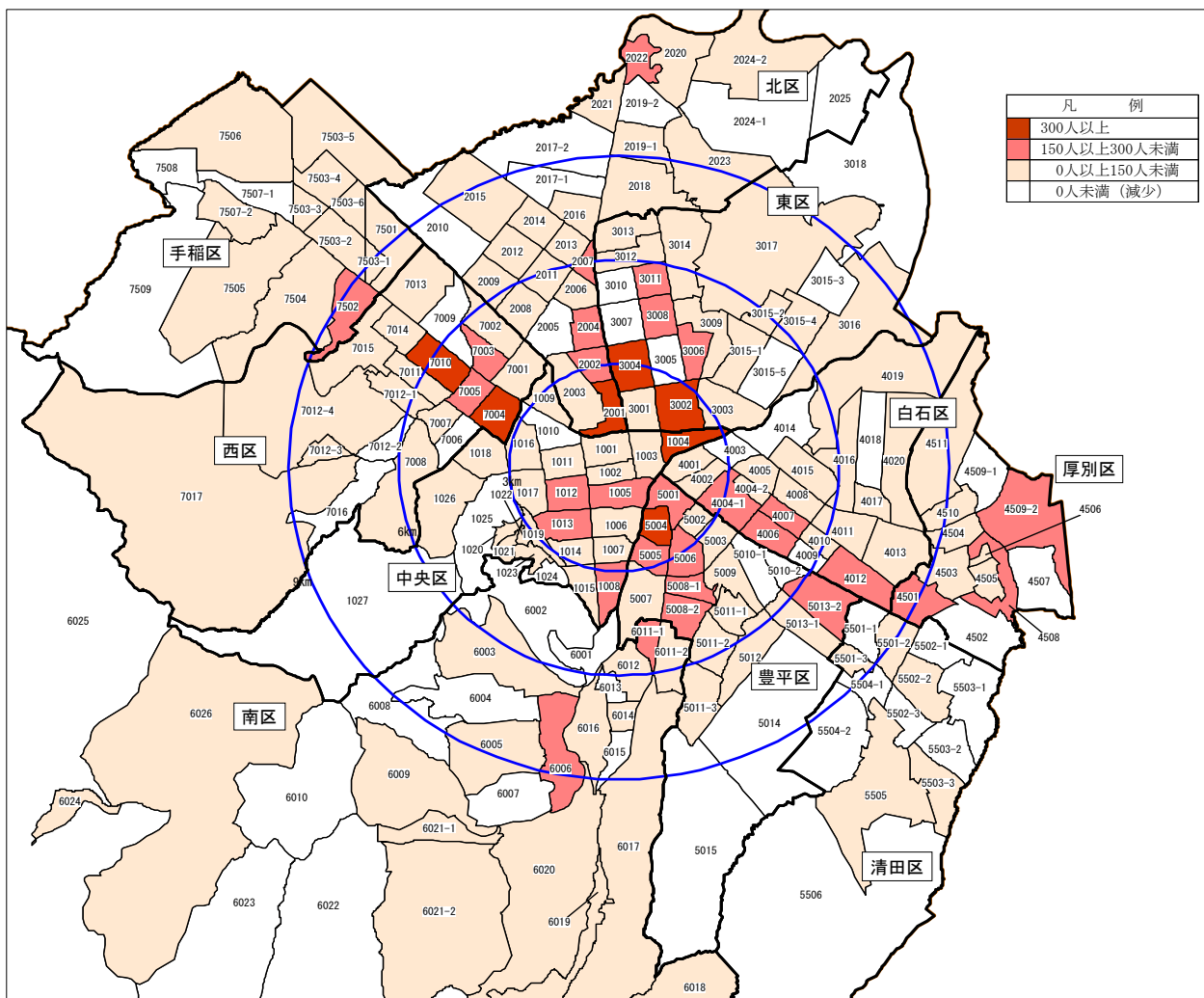
人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

令和6年中

順位	社会増加数の多い統計区		社会増加数	順位	社会増加数の少ない統計区		社会増加数
	統計区番号及び主な地区・町名	社会増加数			統計区番号及び主な地区・町名	社会増加数	
1	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	460	1	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 161		
2	7004 西) 二十四軒	435	2	2017-2 北) 屯田、屯田町	△ 95		
3	3004 東) 北光地区、北栄地区	428	3	3005 東) 北光地区、北栄地区	△ 87		
4	1004 中) 苗穂地区	407	4	5503-2 清) 里塚	△ 72		
5	3002 東) 鉄東地区、苗穂地区	376	5	2017-1 北) 屯田	△ 70		

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第12図 統計区別社会増加数（令和6年中）



注：第13表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課



第14-1表 男女・月次・区別人口動態（総数）（令和6年）

住民基本台帳による。

男女、次区 及び	人口 増加数	自然動態			社会動態											区間移動・その他				
		自然 増加数	出生	死亡	社会 増加数	市外との移動						区間 増加数	区間移動			職権等 増減				
						増加数			転入				転出				増加数	転入	転出	
						総数	道内	道外	総数	道内	道外		総数	道内	道外					
総数	△1,250	△14,712	9,669	24,381	13,462	13,903	12,622	1,281	66,949	35,633	31,316	53,046	23,011	30,035	△441	-	53,597	53,597	△441	
男	△301	△6,926	4,977	11,903	6,625	6,916	5,469	1,447	35,904	18,196	17,708	28,988	12,727	16,261	△291	-	25,590	25,590	△291	
女	△949	△7,786	4,692	12,478	6,837	6,987	7,153	△166	31,045	17,437	13,608	24,058	10,284	13,774	△150	-	28,007	28,007	△150	
月 別																				
6年	1月	△1,204	△1,663	878	2,541	459	479	437	42	3,153	1,555	1,598	2,674	1,118	1,556	△20	-	3,208	3,208	△20
	2月	△828	△1,365	690	2,055	537	576	707	△131	3,609	1,940	1,669	3,033	1,233	1,800	△39	-	3,666	3,666	△39
	3月	△1,304	△1,215	771	1,986	△89	△30	3,061	△3,091	13,500	8,220	5,280	13,530	5,159	8,371	△59	-	5,715	5,715	△59
	4月	3,938	△1,235	791	2,026	5,173	5,206	3,375	1,831	13,366	7,663	5,703	8,160	4,288	3,872	△33	-	5,165	5,165	△33
	5月	△28	△1,196	876	2,072	1,168	1,197	770	427	4,592	2,227	2,365	3,395	1,457	1,938	△29	-	4,874	4,874	△29
	6月	△439	△1,043	759	1,802	604	634	506	128	3,795	1,854	1,941	3,161	1,348	1,813	△30	-	4,293	4,293	△30
	7月	121	△1,015	910	1,925	1,136	1,182	753	429	4,795	2,358	2,437	3,613	1,605	2,008	△46	-	4,785	4,785	△46
	8月	△559	△1,021	843	1,864	462	481	602	△121	3,947	1,894	2,053	3,466	1,292	2,174	△19	-	4,331	4,331	△19
	9月	△73	△1,068	804	1,872	995	1,026	561	465	4,542	2,044	2,498	3,516	1,483	2,033	△31	-	4,145	4,145	△31
	10月	61	△1,249	867	2,116	1,310	1,357	663	694	4,796	2,308	2,488	3,439	1,645	1,794	△47	-	4,750	4,750	△47
	11月	△504	△1,299	751	2,050	795	833	490	343	3,484	1,815	1,669	2,651	1,325	1,326	△38	-	4,626	4,626	△38
	12月	△431	△1,343	729	2,072	912	962	697	265	3,370	1,755	1,615	2,408	1,058	1,350	△50	-	4,039	4,039	△50
区 別																				
中央区		893	△1,563	1,182	2,745	2,456	2,488	2,310	178	13,259	5,852	7,407	10,771	3,542	7,229	△32	68	8,274	8,206	△100
北区	△	272	△2,082	1,396	3,478	1,810	2,022	1,393	629	9,785	4,455	5,330	7,763	3,062	4,701	△212	△64	6,719	6,783	△148
東区		41	△1,699	1,362	3,061	1,740	1,795	1,585	210	8,035	4,531	3,504	6,240	2,946	3,294	△55	△18	7,097	7,115	△37
白石区		245	△1,492	1,182	2,674	1,737	1,715	1,493	222	7,329	4,336	2,993	5,614	2,843	2,771	22	69	6,992	6,923	△47
厚別区	△	558	△1,189	454	1,643	631	851	845	6	3,711	2,254	1,457	2,860	1,409	1,451	△220	△167	2,599	2,766	△53
豊平区		503	△1,373	1,255	2,628	1,876	1,998	2,066	△68	8,825	5,106	3,719	6,827	3,040	3,787	△122	△111	7,968	8,079	△11
清田区	△	1,134	△1,016	427	1,443	△118	△45	177	△222	1,977	1,133	844	2,022	956	1,066	△73	△59	2,026	2,085	△14
南区	△	733	△1,575	546	2,121	842	764	464	300	4,046	2,083	1,963	3,282	1,619	1,663	78	102	3,344	3,242	△24
西区		387	△1,410	1,229	2,639	1,797	1,464	1,507	△43	6,619	3,816	2,803	5,155	2,309	2,846	333	344	5,969	5,625	△11
手稲区	△	622	△1,313	636	1,949	691	851	782	69	3,363	2,067	1,296	2,512	1,285	1,227	△160	△164	2,609	2,773	4

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第14-2表 男女・月次・区別人口動態（日本人）（令和6年）

住民基本台帳による。

男女、 及び 区	人口 増加数	自然動態			社会動態															
		自 然 増 加 数	出 生	死 亡	社 会 増 加 数	市外との移動									区間移動・その他					
						増 加 数			転 入			転 出			増 加 数	区 間 移 動		職 権 等 増 減		
						総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外		増 加 数	増 加 数		転 入	転 出
総 数	△4,048	△14,755	9,579	24,334	10,707	10,588	12,785	△2,197	59,684	35,024	24,660	49,096	22,239	26,857	119	-	52,321	52,321	119	
男	△1,814	△6,953	4,922	11,875	5,139	5,111	5,577	△466	32,013	17,898	14,115	26,902	12,321	14,581	28	-	24,841	24,841	28	
女	△2,234	△7,802	4,657	12,459	5,568	5,477	7,208	△1,731	27,671	17,126	10,545	22,194	9,918	12,276	91	-	27,480	27,480	91	
月 別																				
6年	1月	△1,293	△1,661	874	2,535	368	361	415	△54	2,804	1,520	1,284	2,443	1,105	1,338	7	-	3,144	3,144	7
	2月	△823	△1,368	684	2,052	545	533	726	△193	3,237	1,908	1,329	2,704	1,182	1,522	12	-	3,600	3,600	12
	3月	△1,337	△1,225	758	1,983	△112	△115	3,097	△3,212	12,718	8,136	4,582	12,833	5,039	7,794	3	-	5,589	5,589	3
	4月	3,213	△1,236	784	2,020	4,449	4,429	3,373	1,056	12,242	7,583	4,659	7,813	4,210	3,603	20	-	4,999	4,999	20
	5月	△302	△1,199	867	2,066	897	866	761	105	4,033	2,173	1,860	3,167	1,412	1,755	31	-	4,771	4,771	31
	6月	△588	△1,048	752	1,800	460	453	546	△93	3,362	1,826	1,536	2,909	1,280	1,629	7	-	4,175	4,175	7
	7月	△91	△1,022	901	1,923	931	926	766	160	4,227	2,310	1,917	3,301	1,544	1,757	5	-	4,680	4,680	5
	8月	△620	△1,026	836	1,862	406	387	603	△216	3,434	1,850	1,584	3,047	1,247	1,800	19	-	4,235	4,235	19
	9月	△649	△1,070	798	1,868	421	404	546	△142	3,602	1,973	1,629	3,198	1,427	1,771	17	-	4,042	4,042	17
	10月	△375	△1,253	860	2,113	878	871	723	148	3,990	2,258	1,732	3,119	1,535	1,584	7	-	4,624	4,624	7
	11月	△701	△1,303	741	2,044	602	595	511	84	3,027	1,775	1,252	2,432	1,264	1,168	7	-	4,528	4,528	7
	12月	△482	△1,344	724	2,068	862	878	718	160	3,008	1,712	1,296	2,130	994	1,136	△16	-	3,934	3,934	△16
区 別																				
中 央 区		456	△1,574	1,164	2,738	2,030	1,925	2,341	△416	11,962	5,748	6,214	10,037	3,407	6,630	105	97	8,030	7,933	8
北 東 区		△640	△2,094	1,374	3,468	1,454	1,392	1,491	△99	8,045	4,370	3,675	6,653	2,879	3,774	62	53	6,538	6,485	9
東 白 石 区		△272	△1,708	1,349	3,057	1,436	1,495	1,627	△132	7,328	4,471	2,857	5,833	2,844	2,989	△59	△113	6,877	6,990	54
厚 別 区		△234	△1,495	1,174	2,669	1,261	1,283	1,465	△182	6,576	4,269	2,307	5,293	2,804	2,489	△22	△25	6,785	6,810	3
豊 平 区		△663	△1,185	453	1,638	522	680	822	△142	3,351	2,208	1,143	2,671	1,386	1,285	△158	△162	2,558	2,720	4
豊 清 田 区		166	△1,382	1,245	2,627	1,548	1,611	2,037	△426	8,046	5,037	3,009	6,435	3,000	3,435	△63	△85	7,811	7,896	22
南 西 区		△1,210	△1,017	423	1,440	△193	△137	167	△304	1,761	1,103	658	1,898	936	962	△56	△62	1,979	2,041	6
手 稲 区		△951	△1,578	540	2,118	627	507	567	△60	3,473	2,039	1,434	2,966	1,472	1,494	120	127	3,278	3,151	△7
西 区		165	△1,409	1,225	2,634	1,574	1,228	1,478	△250	6,194	3,766	2,428	4,966	2,288	2,678	346	335	5,887	5,552	11
手 稲 区		△865	△1,313	632	1,945	448	604	790	△186	2,948	2,013	935	2,344	1,223	1,121	△156	△165	2,578	2,743	9

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課